

女性の働き方から考える 歯科医療の未来

The Future of Dentistry Through the
Perspective of Women's Careers

柴岡永子

Noriko SHIBAOKA



(しばおか・のりこ)

ICDフェロー

柴岡デンタルクリニック

近年、女性歯科医師の活躍の場は大きく広がっています。しかし、私が感じているのは、「女性だから」という枠組みではなく、一人ひとりが自分らしい働き方を選択できる時代になってきたということです。

企画・運営に携わったシンポジウムでは、ライフイベントと歯科医師としてのキャリアの両立をテーマに、多くの学生から率直な質問が寄せられました。在学中から将来の働き方を真剣に考え、自分らしいキャリアを模索する姿に、時代の変化を感じるとともに、その意識の高さを心強く思いました。

歯科医療のフィールドは、診療所や病院だけではありません。教育、研究、行政、スポーツ歯科、学校歯科、産業保健、災害支援など、社会との接点は着実に広がっています。私自身、労働衛生コンサルタントとして企業の歯科特殊健康診断に携わる中で、歯科医療が「働く人の健康」を支える重要な役割を担っていることを実感しています。企業との信頼関係を築きながら専門性を発揮できるこの分野は、計画的に業務を進めやすいという特徴もあり、ライフステージに応じた働き方の選択肢にもなり得ます。

一方で、このような分野に携わる歯科医師はまだ多いとは言えません。しかし、それは裏を返せば、歯科医療にはまだ開拓されていない可能性が数多く残されているということでもあります。

歯科医師には定年がありません。若い世代はライフイベントとの両立を考え、中堅世代は専門性を深め、ベテラン世代は事業承継や地域への貢献を考えるなど、それぞれの年代に応じた課題があります。「どのように診療を終えるか」と同時に、「その日まで、どのように社会と関わり、自分らしく専門性を生かし続けるか」を考えることも、これからの時代には大切ではないでしょうか。

ロールモデルの歩みを学ぶことは大切です。しかし、それをそのまま追うだけではなく、自らの可能性を広げ、自分に合ったフィールドを見つけ、新たな挑戦を楽しむことこそ、これからの歯科医療に求められる姿だと考えています。

専門性は、診療室の中だけで完結するものではありません。歯科医療が社会とつながる場面は、これからもさらに広がっていくはずです。その可能性を信じ、多様な挑戦を続けることが、次の時代の歯科医療を支える力になると信じています。